

平成29年度 伊那北高等学校 評価表

教育目標		中・長期的目標				
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。		1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。				
		重点目標				
		1 挨拶・清掃を徹底して人として基本的な力を身に付け、安心安全な教育環境をととのえる。 2 伸びる力を伸ばすため「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業と教育課程の改善を進める。 3 グローバル化につながる地域理解としての「上伊那学」を地元資源と連携しつつ進める。				

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	評価の主な材料	成果と課題	改善策・向上策	校務関係
教育活動	進路・学習に関わる指導	2 3	進路意識の醸成	・生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができたか。	・体験活動、模擬授業への積極的取り組みを促す。	生徒アンケート	・「首都大学東京見学会」「東大見学会」「信大模擬授業」「就業体験」等に参加し、自己の進路を考える上での視点を持つことができるようになった。しかし、参加希望者が減少傾向にあることが課題である。土曜授業日に実施されるオープンキャンパスへの参加がしやすいような制度を作った。	・各行事の目的、時期を検討、見直しして、系統的に体験活動ができるようにしていきたい。また、学年通信等で周知し、参加人数の増加を図り、自己の進路について考えさせるきっかけを提示したい。	進路指導 総合指学会
			2	進路実現	・生徒の進路実現のために適切な手立てを取ることができたか。	・生徒・保護者との連携を深め、自己の進路志望を明らかにする。 ・第1志望の進路実現に向けての計画を作り実現する。 ・定期考査や外部模試等の結果を分析し、課題を共有するとともに、適切な手立てを考え実行する。	保護者アンケート	・個人面談を充実することにより、進路を意識させ、明確なものとするを図った。 ・定期考査について、教科の特性等を踏まえ事後指導だけでなく事前指導も行うことのできる体制を整えた。例年通り外部模試の定点観測を行ったが、指導の継続性を意識するような質問項目に変更し、より適切な手立てを講ずることができた。 ・模試の結果等を踏まえ、補習内容や実施形態を工夫した。	・各行事や面談が形式的なものにならないように、目的・意義を担任・生徒双方が理解し、連携を深めるようにしていく。 ・今後も定期考査や外部模試について分析を行い、適切な手立てが取れるように工夫していく。
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行う。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにし、改善に活かす。 ・ICTを活用した授業改善の工夫をする。	授業評価	・初任者研修等の研究授業や土曜日公開授業の他、互見授業週間を設け、授業改善に向けた取り組みを行った。 ・引き続き匿名性を担保した授業評価を実施した。今年度は生徒自身の授業への取り組みを振り返る項目を追加した。結果、生徒がどのように授業に取り組んでいるかを担当者が把握することができた。集計結果は各職員・各教科に提供し考察・検討した。より改善された授業に努めている。 ・RESAS事業により、各HR教室等に電子黒板が導入され、活用のための研修会等を実施。結果、授業の様々な面で活用が見られた。また、上述の研修会等、公開授業等でもICTを活用した授業が多く公開された。 ・例年同様、全体としては、5月・10月の年2回、家庭学習時間および生活記録調査を実施し、生徒の実態把握を行った。年間行事予定に4回の面接・懇談期間を設け、学習態勢への指導や相談等を適切に行った。 ・各学年ではほぼ月一回の学習時間調査を実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、丁寧な指導を行うことができた。	・今後も互見授業週間等をいかして授業改善への取り組みを進める。 ・引き続き授業評価を行い、結果を授業改善にいかしていく。	学習指導
		2	家庭学習指導	・授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・予習復習や課題への取り組みについて点検し、個人面談などを通して適切な指導を行う。 ・「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の増加を図る。	学習時間調査	・一人平均貸出し冊数は4.4冊とやや減少気味。 ・昼休みの来館者が貸出数増に結び付けられればいいのだが、課題。 ・夏休み頃までは、課題研究や授業での利用も多かった。	・今後も学習時間調査や面談を実施し、生徒の実態把握に努めるとともに、きめ細やかな指導を継続していく。	学習指導
		2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」の実施。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供するため、本と情報を提供する。 ・授業・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	図書館利用数	・一人平均貸出し冊数は4.4冊とやや減少気味。 ・昼休みの来館者が貸出数増に結び付けられればいいのだが、課題。 ・夏休み頃までは、課題研究や授業での利用も多かった。	・広報、PR活動の充実を図りたい。 ・図書館に来ている生徒への声かけ、呼びかけで利用の輪を広げる。 ・授業での利用を促進する働きか	学習指導 図書館
	学校生活に関わる指導	1	生徒支援体制の充実	・関係職員・スクールカウンセラーが連携し、一致した方針をもって、個々の生徒を支援することができたか。	・関係職員・カウンセラーとの情報共有を密にすることで共通認識をもつて適切な支援を行う。 ・職員学習会を実施し、特別支援教育等の理解を深め、実践に活かす。		・生徒の情報共有について、定期的な部会を開き状況把握や支援方法について検討することができた。 ・スクールカウンセラーは、生徒・保護者の必要に応じて積極的に利用していただき、例年以上の時間数を実施することができた。 ・ケース会議や校外の専門家の支援とアドバイスをいただき生徒支援に生かすことができた。 ・自転車事故が8件あったが、いずれも軽微なものであった。生徒会とも連携し交通安全指導ができた。	・生徒支援には、職員間の情報共有が重要であり、今後も情報共有を継続する必要がある。 ・特別支援教育職員研修の参加率を上げるため、内容の充実と期日設定の工夫をする。	特別支援 推進委員会
			1	生徒の健康管理・安全	・学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・学校行事を運営する際の安全面での事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全及び盗難予防指導の実施と充実を図る。 ・年間3回のアンケートと4回の面接週間に於いて実態の把握に努める。		・ベン祭の出店における食材のアレルギー物質の含有表示をもっと徹底すべきであった。 ・アンケートを実施し、面談週間での指導に活用できた。	・来年度は、扱う商品に含まれるアレルギー物質について厳格に調査し、それを来客者の目にとりやすい表示を行うよう工夫したい。 ・生活アンケートについては、生徒の状況を把握できる部分があるので、継続して実施したい。
		1	環境への配慮と校舎内外の美化	・「エコマネジメント長野」に基づき、ごみの減量と校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの減量に努める。 ・日常の清掃活動の徹底と教室の学習環境整備に努める。 ・部室周辺の清掃及びトイレ清掃を徹底する。 ・校外美化活動を実施し、地域社会に貢献する意識を醸成する。 ・電気、水道使用量の節減に努める。	評エ コ マ 清 潔 状 況 の 確 長 野 の	・日常の清掃活動状況は概ね良好である。部室清掃の回数も増え、学習環境整備への意識は向上しているが、不燃系ゴミなどの搬出が増え、ゴミの減量について課題が残った。 ・校外美化活動は、定期的に実施し、伊那北駅周辺から学校近隣の通学路の美化活動を実施し、地域社会との共生意識を高めることができた。また、地元企業見学会も実施し、環境整備の企業経営に反映させる経営などを学ぶことができた。	・ゴミの減量に向けて、環境教育の視点も取り入れゴミ処理及びゴミ減量に向けた広報活動を来年度は充実させたい。 ・校外美化活動は、清掃委員会だけでなく奉仕委員会の賛同も得て活動したが、来年度はさらに全校生徒から希望者も募り、地域社会とともに歩む活動を広げていきたい。	エコマネ ジメン ト長 野
		3	地域との連携	・中学生及び保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、入学者選抜説明会(保護者向け)、中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・HPやメール等を通じた情報を随時発信する。	来校者へのアンケート	・HPにおいて学校の様子を含め多くの情報を提供、発信することができた。 ・体験入学、中学校訪問、視察の受け入れ等の日程、内容については中学校側の要望を十分聞いた上で対応することができた。	・様々な情報発信をHP等を中心に更に進めていくことにより、中学校及び地域の本校への理解が深まるよう工夫していく。	教務
			2 3	学校ビジョンの検討	・今後の地域の実情に基づいた、学校ビジョンについて検討する事ができたか。 ・大学入学希望者学力評価テスト(仮称)や高等学校基礎学力テスト(仮称)の実施に向けて、対応できる教育課程の検討が為されたか。	・今後の少子化の動向、「学びの改革」、大学入学希望者学力評価テスト(仮称)、高等学校基礎学力テスト(仮称)の実施への対応等を踏まえ、アンケートを取るなど広い視点から多くの意見を取り入れ、合意形成に向け議論を行う。 ・大学入学希望者学力評価テストや高等学校基礎学力テストの実施に向けて情報収集や分析を進め、多様な進路に対応した教育課程の検討を行	来校者へのアンケート	・今後の少子化の動向、「学びの改革」、大学入学希望者学力テスト等を見据え、学科改革を臨んだ本校の将来像についての研修会を3回開催し、職員が意見を交換する機会を設けることができた。 ・大学入学共通テストや高大接続改革、及び新教育課程について、試行調査や発表されている情報に基づいて、分析を行った。変革へのスムーズな移行等を念頭に、来年度より5分授業を実施することになった。	・研修会や委員会を数回開催し、より将来像を明確にする。 ・引き続き高大接続改革や新教育課程等の情報収集に努めながら、新教育課程の編成や今後の変革に対応できるようにする。
組織運営	1 2 3	学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評議委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。	保護者へのアンケート	・引き続き、生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。 ・学校評議員の方々から、さまざまなご意見、提言をお聞きすることができた。	・保護者や学校評議員の方々からいただいた評価について改善及び検討を加えフィードバックしていくことにより、さらに本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。また評価内容及び項目についてはその都度検討していく。	学校 評 価 委 員 会	